

**平成21年度大阪大学大学院**  
**大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所**  
**(後期3年のみの博士課程)**  
**学生募集要項**

**アドミッションポリシー(入学者受入方針)**

少子化時代を迎えたわが国の社会が直面する最大の課題は「子どものころを健やかに育てはぐくむ」ことです。しかしながら、青少年の凶悪犯罪やいじめを苦にした自殺、親から虐待を受けている子どもの増加、また、うつ病や摂食障害を持つ子どもの低年齢化など、子どものころはきわめて深刻な危機にさらされています。さらに、教員を対象とした文部科学省の調査結果によれば(2002年)、「知的発達の遅れはないが学習や行動に著しい困難を示す」児童生徒数は全体の6.3%であったとされています。

一方で、子どものころを扱う専門家は絶対的に数が不足しており、さらに、これらの医学、心理学、保健学/看護学、教育学などを修めた専門家は、それぞれの専門領域と経験とに基づいて子どものころを扱っており、定式化されたものはなく、科学的な視点も不足しがちです。

このような状況の中、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学は、連携融合事業「子どものころの発達研究センターにおける教育・研究事業」において、脳科学と社会心理学の統合的観点に立って子どものころの問題の理解を深め、子どもの問題行動への対処方法や教育手法を研究し、さらには、そのような能力を備えた人材を育成するための基盤を整備いたしました。

連合大学院「小児発達学研究所」は、「子どものころの発達研究センター」が整備しました基盤を下に、『子どものころの障害』に科学的知識をもって対応できる人材を養成するため、医学、心理学、保健学/看護学、教育学などの学際領域を研究対象とし、異なる出身履歴を持つ社会経験のある専門家が、共に学び研究することにより、真に学際的で現在の要求に応える研究者、指導者層、高度専門家の育成を目指します。

具体的には、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学において『子どものころの課題』に関連する異なった専門領域における教員、研究者が専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて異なった背景を持つ学生を教育します。

このことにより、既存の領域を超えた新しい研究領域である『子どものころと脳発達学』の研究者を育成し、また、『子どものころと脳発達とその障害』の理解と対応を協働して進めていく密接なネットワークを形成し、真に学際的で現在の社会の要求に応えうる指導者層や高度専門家を育成し、「子どものころを健やかに育てはぐくむ」ことに貢献いたします。

**1 専攻及び募集人員**

専攻 : 小児発達学

募集人員 : 10名

| 講 座 名                | 受入数 |
|----------------------|-----|
| こころの発達神経科学講座（大阪大学）   | 4名  |
| こころの相互認知科学講座（金沢大学）   | 3名  |
| こころの発達健康科学講座（浜松医科大学） | 3名  |

各講座（大学）への受入数は、目安として設定しているものです。

## 2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を取得した者及び平成21年3月までに取得見込みの者
  - (2) 外国において、学校教育における18年の課程（最終課程が医学を除く）を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び平成21年3月までに取得見込みの者
  - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより、当該外国の学校教育における18年の課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び平成21年3月までに取得見込みの者
  - (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育における18年の課程を有するものとして、当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び平成21年3月までに取得見込みの者
  - (5) 文部科学大臣が指定した者（平成元年文部省告示118号）
    - 大学を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科において当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を取得した者と同等以上の学力があると認められた者
    - 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を取得した者と同等以上の学力があると認められた者
  - (6) 次の経歴を有する者等で、本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を取得した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成21年3月31日までに24歳に達している者
    - 医学部（医学科）を卒業し、医師として2年以上の臨床経験を持つ者
    - 大学を卒業し、スクールカウンセラー、学校教諭（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）、看護師又は臨床心理士等として5年程度の経験を持つ者
    - 外国において学校教育における18年の課程（最終課程は医学）を修了した後、医師として2年以上の臨床経験を持つ者
    - 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、スクールカウンセラー、学校教諭（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）、看護師又は臨床心理士等として5年程度の経験を持つ者
- 「2 出願資格(5)、(6)」で出願を希望する者は、「3 資格認定審査」をご覧ください。

### 3 資格認定審査

#### (1) 入学資格審査

上記出願資格の(5)及び(6)に該当する者に対しては、出願に先立ち、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を取得した者と同等以上の学力の有無に関する認定審査(以下、「資格認定審査」という。)を実施します。資格認定審査は、書類審査及び面接を実施し、資格認定審査に合格した者が博士課程入学試験に出願することができます。

#### (2) 資格認定審査日程等(出願資格(5)及び(6)に共通)

資格認定審査受付期間

平成20年11月10日(月)～平成20年11月14日(金)

書類の受付場所

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

大阪大学医学系研究科総務課教務係(電話06-6879-5111(代表))

郵送(書留郵便)の場合は、平成20年11月14日(金)以前の郵便局の消印のあるものに限り受付期間後の到着でも受理します。

持参される際の受付時間は、9時00分～12時、13時～16時30分の間としています。

#### (3) 資格認定審査必要書類

資格認定審査申請書(所定様式)

受験票・写真票(所定様式)

研究業績調書(所定様式)(研究歴のない方は必要ありません。)

研究論文(研究歴のない方は必要ありません。)

出身学校の卒業証明書及び成績証明書

在職証明書等

返信用封筒(80円切手貼付・合否通知用)

所定の様式は、大阪大学大学院医学系研究科ホームページに掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.med.osaka-u.ac.jp/jp/jyuken/kenkyuka.html>)

#### (4) 資格認定審査面接試験

日時：平成20年11月25日(火)13時30分～

場所：志望される研究領域が置かれている大学で実施

- 大阪大学：13時10分までに医学部医学科講義棟1F第1セミナー室に集合  
医学部の所在地は、以下を参照願います。

(<http://www.med.osaka-u.ac.jp/jp/access/index.html>)

- 金沢大学：13時10分までに医薬保健学域医学類B棟1F小会議室に集合  
医学類B棟の所在地は、以下を参照願います。

(<http://www.m.kanazawa-u.ac.jp/outline/lab/index.html>)

- 浜松医科大学：13時10分までに講義実習棟2Fフューチャール室A10に集合  
講義実習棟の所在地は、以下を参照願います。

(<http://www.hama-med.ac.jp/university/buildmap/index.html>)

- 面接を受けない場合、資格認定審査は不合格となります。
- 各研究領域の研究内容については、連合小児発達学研究科の概要を参照してください。

(5) 資格認定審査合格者発表

平成20年12月1日(月)

時間：13時30分

大阪大学大学院医学系研究科ホームページ上で資格認定審査合格者の受験番号を掲載するとともに、申請者あてに資格認定審査合否通知書を送付します。電話での合否の照会には一切応じられません。

(<http://www.med.osaka-u.ac.jp/jp/jyuken/kenkyuka.html>)

#### 4 出願書類等

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| ・入学願書                             | ・ 本学所定の用紙<br>・ 銀行から収納印を受けた検定料納付証明書を所定欄に貼付して下さい。  |
| ・ 受験票(1)<br>・ 写真票                 | ・ 本学所定の用紙<br>・ 出願前3ヶ月以内に撮影した志願者の写真2枚を本学所定の用紙に貼付してください。   |
| ・ 志望理由(研究計画)書                     | ・ 本学所定の用紙  |
| ・ 卒業(見込)証明書<br>・ 修了(見込)証明書<br>(2) | ・ 出身大学長等が作成したもの。<br>・ 大学院修了(見込みを含む)者は、 <u>学部と大学院の両方</u> を提出してください。<br>外国人留学生は、その他学位を証明する書類が必要になる場合があります。   |
| ・ 成績証明書<br>(2)                    | ・ 出身大学長等が作成して厳封したもの。<br>・ 大学院修了(見込みを含む)者は、 <u>学部と大学院の両方</u> を提出してください。   |
| ・ 受験許可書<br>(入学承諾書)                | ・ 出願時、官公庁、研究所、企業、病院等に勤務し、入学後もその職を有する者(社会人入学の者)   |
| ・ 外国人登録原票記載事項証明書<br>(外国人登録済証明書)   | ・ 外国人の場合は在留資格明記の外国人登録原票記載事項証明書(外国人登録済証明書)を提出してください。  |
| ・ 国費外国人留学生証明書                     | ・ 国費外国人留学生の者   |
| ・ 検定料納付証明書                        | ・ 本学所定の用紙<br>・ 収納印を受けたものを入学願書の所定の欄に貼付してください。<br>ただし、大阪大学、金沢大学及び浜松医科大学の大学院修士課程、博士前期課程又は法科大学院の課程を平成21年3月修了予定の者並びに国費外国人留学生については、検定料納付証明書は提出不要です。                                    |
| ・ 検定料                             | ・ 30,000円<br>本学所定の振込依頼書を用い銀行窓口(ATM(現金自動預払機)は不可)で検定料に手数料を添えて振り込んでください。なお、振込手数料は振込者負担です。<br>ただし、大阪大学、金沢大学及び浜松医科大学の大学院修士課程、博士前期課程又は法科大学院の課程を平成21年3月修了予定の者並びに国費外国人留学生については、検定料は不要です。 |

|           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| ・受験票発送用封筒 | ・住所、氏名及び郵便番号を明記し、290円切手を貼付してください。 |
| ・宛名票      | ・入学手続関係資料の送付等、大学からの連絡用に使用します。     |

- 1 受験票は平成21年1月7日（水）に配達記録郵便で発送する予定です。
- 2 改姓（改名）により、卒業証明書、成績証明書等の氏名が異なっている場合は、変更の事実を証明できるものを筆記試験開始前に提示してください。

## 5 出願方法及び注意事項

入学志願者は、出願書類を取りそろえ、大阪大学医学系研究科総務課教務係へ持参又は郵送（書留郵便）してください。

願書受付期間：平成20年12月8日（月）～12月19日（金）（土・日曜日を除く）  
持参の場合の窓口受付：各日 9時00分～12時、13時～16時30分  
郵送の場合の送付先：〒565-0871  
吹田市山田丘2-2 大阪大学医学系研究科総務課教務係

郵送（書留郵便）の場合は、平成20年12月19日（金）以前の郵便局の消印のあるもの  
に限り受付期間後の到着でも受理します。

志願者は出願に先立ち、連合小児発達学研究科の概要を参考に、必ず志望する各研究  
領域に相談してください。

出願に際して不明な点があれば上記へお問い合わせください。

## 6 入学者選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験及び面接試験、提出書類等を総合して行います。

### (1) 筆記試験

外国語（英語）

辞書（語学辞書に限る）の持ち込みを許可します。ただし、電子辞書及び生化学辞典等の持ち込みは許可しません。

### (2) 面接試験

将来、どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、また、同課題に関する意欲、熱意、将来性等を審査します。

## 7 筆記試験〔外国語（英語）〕の日時及び場所

日時：平成21年1月22日（木） 14時00分～15時30分

場所：大阪大学医学部医学科講義棟

- 1 受験者は、試験開始30分前に医学部講義棟に集合し係員の指示を受けてください。
- 2 試験場に入場する際、本人確認のため受験票を提示してください。

## 8 面接試験の日時及び場所

日時：平成21年1月22日（木）16時～18時  
場所：大阪大学医学部医学科管理棟会議室

## 9 合格者発表

次のとおり合格者の受験番号をホームページに掲載します。電話による合否の照会には一切応じられません。

| 日 時                     | 場 所  |
|-------------------------|--|
| 平成21年2月13日（金）<br>13時30分 | 大阪大学大学院医学系研究科ホームページ<br><a href="http://www.med.osaka-u.ac.jp/jp/jyuken/kenkyuka.html">http://www.med.osaka-u.ac.jp/jp/jyuken/kenkyuka.html</a> |

なお、合格者には合格通知書を、2月13日（金）に郵送します。

## 10 入学手続

入学手続は、平成21年3月中旬に行う予定です。入学手続関係資料は、合格者に対して平成21年2月16日（月）に、出願時に提出された宛名票記載の住所に郵送する予定です。入学手続完了者には、3月下旬に入学式、ガイダンス等についての書類を郵送します。

## 11 入学科及び授業料

入学科 ・ ・ ・ ・ ・ 282,000円

授業料〔前期・後期共に〕

・ ・ 267,900円（年額535,800円）

入学手続に必要な経費は入学科282,000円です。前期分授業料267,900円（年額535,800円）は5月下旬（予定）（後期分は11月下旬（予定））の所定の期日までに納付してください。

入学科・授業料の金額については変更することがあります。

在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

大阪大学、金沢大学及び浜松医科大学の大学院修士課程、博士前期課程又は法科大学院の課程を平成21年3月に修了予定の者並びに国費外国人留学生については、入学科は不要です。

## 12 留意事項

- (1) 出願書類に虚偽の記載があれば、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (2) 身体に障害のある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を希望する者は、事前に（原則として1月9日（金）までに）大阪大学医学系研究科総務課教務係へ申し出てください。  
（電話連絡可）
- (3) 出願後の入学願書等の記載事項の変更は認めません。
- (4) 出願受付後の検定料は、次の場合を除き、返還できません。  
出願したが受験資格がなかった場合  
出願書類受付期間後に書類が到着し、受理できなかった場合

出願書類に不備があり受理されなかった場合  
検定料を払い込んだが本研究科に出願しなかった場合  
検定料を誤って二重に振り込んだ場合

、 の場合は、返還請求を行ってください。検定料返還請求書（指定様式）は下記まで請求してください。

- (5) 受験のための宿泊施設等の斡旋はしません。
- (6) 自動車及び自動2輪車（原動機付自転車を含む）での構内への入構はできません。
- (7) 募集要項の郵送による請求方法

封筒の表に「平成21年度小児発達学研究科博士課程学生募集要項請求」と朱書し、返信用封筒（角形2号サイズ・返信用切手240円貼付・受取人の住所、氏名、郵便番号を明記）を同封し、下記あてに請求してください。

|  |
|--|
| 〒565-0871<br>大阪府吹田市山田丘2-2<br>大阪大学医学系研究科総務課教務係<br>電話 06-6879-5111（代表） |
|--|

### 13 個人情報の取扱いについて

- (1) 出願時に提出いただいた氏名、住所その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。

なお、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導）」、「学生支援関係（健康管理、奨学金申請・授業料免除、就職支援等）」及び「授業料徴収に関する業務」を行うためにも利用します。

- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。
- (3) 上記の業務を行うにあたり、一部の業務を外部の業者に委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出していただいた個人情報の全部または、一部を提供します。

連合小児発達学研究所の概要

| 専攻名   | 講座名<br>(設置大学)          | 研究<br>領域名    | 担当教員名                            | 連絡先   | 研究内<br>容   |
|-------|------------------------|--------------|----------------------------------|---|--|
| 小児発達学 | こころの発達神経科学<br>(大阪大学)   | 小児発達神経学      | 谷池雅子 教授<br>毛利育子 准教授<br>下野九理子 助教  | 子どものこころの<br>分子統御機構研究<br>センター<br>06-6879-3863  | 子どものこころの発達には、先天的に組み込まれたプログラムの基盤にたつて、個々の遺伝的素因や、養育者との愛着形成、社会経済的な環境や疾病等による後天的な要因が、複雑に相互作用することにより規定される。例えば、極小未熟児生存児に注意欠陥/多動性障害 (ADHD) や学習障害の発生が高いことや、重度の愛情剥奪体験がある子どもでは発達障害類似の症状を示すことが知られている。従って、こころの問題だけを子どもの身体や環境から切り離して考えることはできない。さらに発達障害と診断された場合にも、攻撃性が強い子ども、理解はしているが無言語の子ども、多動が著しく目立つ子ども等々一人一人の特色は異なる。<br>我々の領域では、子どものこころの発達とその障害について脳画像や認知機能検査等を用いて脳科学的な視点から理解すること、後天的な環境要因がどのように子どもの発達に影響を及ぼすかを、特に、睡眠との関連に重点をおいて調べたいことをめざす。  |
|       |                        | 子育て支援学       | 内田裕之 准教授<br>酒井佐枝子 講師             |   | 子育てにおける支援は、子どもの特性のみならず、養育者の特性を理解した上で、子どもが生活する環境を視野に入れた働きかけを行うことが重要といえる。近年における子どもの虐待や事件・事故などの報道からもわかるように、地域における安全が崩壊し、核家族化や少子化などから子どもが生きやすい環境とはいえない。子どもにアプローチするだけでなく、子どもを取り巻く養育者や他者へのアプローチの方法も見直すことが急務といえる。例えば、発達障害児の持つ特性から、養育者が子育てに困難さを感じやすいことも知られており、育児不安や子ども虐待に結びつきやすいことも指摘されている。<br>そこで、子育て支援学領域では、子どもと養育者の特性への理解を深めた上で、臨床心理学的面接に適用していったための技法の習得、子どもと子どもを取り巻く他者との関係性に焦点をあて、発達障害児の対人関係の獲得過程を科学的に検討し、包括的な支援を提供できる視点の習得を目指す。   |
|       |                        | 分子生物遺伝学      | 遠山正彌 教授<br>片山泰一 教授<br>松崎伸介 准教授   |   | 医学系研究科<br>神経機能形態学講座<br>(解剖学第二教室)<br>06-6879-3221   |
|       | こころの相互認知科学<br>(金沢大学)   | 社会認知生物学      | 柴 和弘 教授<br>小泉恵太 准教授<br>吉原 亨 助教   | 子どものこころの<br>発達研究センター<br>(秘書室)<br>076-234-4213 | 現代社会が抱える深刻な問題である、「子どもの学習、社会性、行動の障害」を心が宿る脳の機能障害ととらえて、そのメカニズムを解明するのみならず、「脳を育み機能障害を克服する方策・治療法」を提案するための教育研究を行う。研究成果をあげるための具体的な戦術として、ここ数年の生物学上の大発見である、低分子RNA技術(RNAi)によるショウジョウバエの発達・学習・記憶関連遺伝子の包括的探索を行う。その中から人と相同関係にある遺伝子を選択し、選択した遺伝子の脳内発見をヒトの死後脳で調べ、異常発現している遺伝子について、ヒトの血液サンプルでDNA解析を行う。このようにして、「子どもの学習、社会性、行動の障害」に関する遺伝子群や社会認識を記憶し愛着を向上させる分子を絞り込み、得られた情報を創薬へ活用していく。また、「子どもの学習、社会性、行動の障害」に関係する遺伝子群について、神経ネットワーク形成と可塑性の新分子機構に果たす役割を遺伝子改変技術を用いて究明する。   |
|       |                        | コミュニケーション支援学 | 大井 学 教授<br>荒木友希子 准教授<br>高橋和子 助教  |   | 親子間、仲間間、教師 生徒間などのコミュニケーションは、心についての理解、世界についての概念的知識、文法や語彙のシステム、推論や記憶、感情の表出と受容など多様な能力を、総合的に活用することで成り立っている。また、それは言語を含むコミュニケーションのしかたそのもののみならず、社会文化的な慣習、出来事の意味を理解し、確実な相互理解の手法と相互協調を学ぶことに決定的に関与している。発達障害のある子どもたちは、コミュニケーションに関与する多様な要因の一部あるいは多数に障害があり、母子、家族、園や学校、地域などあらゆる場での社会的な学びに困難を示し、それがかれらの社会適応を脅かすのみならず、安定した人格形成をも妨げかねない。本領域は、そうしたコミュニケーションの障害の発現機構の解明と、子どもと大人あるいは子供同士のコミュニケーション不全への介入技法の開発をめざす。   |
|       |                        | 高次脳機能学       | 小泉晶一 教授<br>棟居俊夫 准教授<br>新井田 要 准教授 |   | 高次脳機能学研究領域では、MR(磁気共鳴)やMEG(脳磁図)などの機能的脳画像法を用い、こころの迅速な活動を映像化し、その背後にある分子生物学的現象を明らかにするための教育活動を行う。MRは医療分野ではごく一般的な検査機器である。MRは応用範囲が広く、機能的MRI(脳の活動を見る)、容量MRI(脳各部位の容積を計算する)、テンソル・イメージング(神経の走行を見る)などにより脳の機能や形態を詳細に知ることができる。一方、MEGは脳内に発生するわずかな磁場を捉える手法である。時間分解能と空間分解能に優れ、ある特定の高次脳機能に関係する脳部位を限定して同定することも可能である。ただ、脳深部の検索には適さない。そこで、MRとMEGを組み合わせることで、こころのひずみに関する詳細な脳内の情報を得る。わが国のMRやMEGの研究者はこころのひずみに関する研究にほとんど関心を持っていないため、この方面に関するわが国の研究は海外に大きく遅れを取っている。今後重点的な充実が必要とされる分野である。さて、わが国の脳画像学研究領域の最大の欠点は、新たな脳画像解析手法を開発する人材がいないことである。わが国の脳画像に関する多くの技術と理論は外国に頼っている。脳画像と分子生物学を結びつけた新しい学問領域を創生するには、画像物理学を専門とする研究領域を作り専門家の育成を図らなければならない。高次脳機能学研究領域は、画像生物学研究領域(浜松医科大学/中京大学)と共にこの人材育成の課題に取り組む。 |
|       | こころの発達健康科学<br>(浜松医科大学) | 画像生物学        | 尾内康臣 教授<br>鳥塚達郎 教授               | 学務部学務課<br>大学院係<br>053-435-2204                | PET(陽電子放出型断層撮影)、MRI(磁気共鳴画像法)や近赤外光トポグラフィなどの分子イメージング法は生体情報を非侵襲的かつ客観的に描出できる優れた特性を持ち、さまざまな病態の診断や治療効果判定の手段として広く普及している。画像生物学では、これらの生体イメージング手法の対象となる脳や生体の機能について学ぶとともに、イメージングにより得られるデータの処理法や解釈の仕方を身に付け、小児の発達における分子イメージング手法の優位性を学習する。   |
|       |                        | 社会支援学        | 辻井正次 客員教授<br>鈴木昭昭 准教授            |   | 障害児・障害者が健全者と同等に生活できるためには、彼らの持つ障害の特性を理解し、個々の発達段階に応じた適切な支援を行うことが不可欠である。社会支援学では、子どもから成人にいたる発達過程の理解に基づいた支援、障害児・障害者のおかれた環境に応じた支援、および、支援する側への支援、という多角的な観点からの支援方法を学ぶ。さらに、医学的診断を含めた個々の子どもの査定方法、査定された障害を持つ子どもに対する個別支援プログラム作成の仕方、実施方法、効果評価法について学習する。   |
|       |                        | 疫学統計学        | 武井教使 教授<br>土屋賢治 准教授              |   | ヒトの発達や行動を研究対象とする場合、発達や行動のどの側面に注目するか、それをどのように客観的に測定するか、対象をいかに正確にサンプリングするか、得られた測定値からどんな科学的事実が演繹されるか、また、研究仮説が科学的に立証されたかなど、順次マクロからミクロに向かう視座を必要とする。疫学を学ぶことにより、この視座が容易に開かれる。疫学統計学では、科学的な考え方に基づいた研究デザイン、データ解釈の方法、統計学的解析法について学習する。   |